令和６年度
建設文教委員会行政視察報告書

令和６年１０月２９日（火）　静岡県静岡市
「部活動の地域移行について」

令和６年１０月３０日（水）　静岡県沼津市
「リノベーションまちづくりについて」

上記の視察項目について全委員の報告書を添付し報告とします。

建設文教委員会	委員長	服部　龍一
	副委員長	武谷　としお
	委　員	鈴木　智和
	委　員	こんどうのぶお
	委　員	いとうひろし
	委　員	鵜飼　貞雄
	委　員	清水　義昭

豊明市議事課
6.11.18
分類　・　・　30・10・5・1
可・否・一部否・一時否
第 135 号 受付

建設文教委員会行政視察報告書

服部　龍一

期　間　　令和６年10月29（火）、10月30日（水）
視察先　　静岡県静岡市　部活動の地域移行について　（人口約６８万人）
　　静岡県沼津市　リノベーションまちづくりについて　（人口約１９万人）

静岡県静岡市　部活動の地域移行について

・中学校部活動改革

行政・学校・関係団体・民間、静岡市総がかりで取り組む社会課題解決。
（本改革は、子どもたちの放課後や、休日の活動を持続可能に変革していくもの。）

・静岡市の部活動を取り巻く状況

部活動は、任意の学校教育活動ではあるものの、中学生年代のスポーツ文化芸術環境の中心的な役割をはじめ、魅力ある教育活動として実施されてきた。しかし、今「部活動」を維持することが難しくなっている。

① 少子化による影響
　・平成の３０年間で約半分に、今後毎年３００～４００人の減少。
② 子どもたちのニーズ
　・部活動に入りたい種目がない。
③ その他
　・共働き、核家族化等の環境の変化から、対外活動での遠方への移動等の役割について負担の声もあり、保護者の役割を見直す必要がある。

⇓

市が主体となり、部活動に代わる受け皿として「シズカツ」の設置を目指している。

※ シズカツとは、近隣校単位「エリア」ごとに設置される、市が中心となって運営する、部活動とは異なる、地域クラブ活動（学校単位ではない）。

コンセプト
誰もがスポーツや文化芸術に「親しみ・楽しみ・挑戦できる」クラブ!!
・様々な仲間と出会い、つながり。
・学校施設を拠点に。

・バランスの良い活動量。
・今部活にある種目だけではない。
・子供たちが作るクラブ。
・市民コーチとしてチャレンジ。

特色

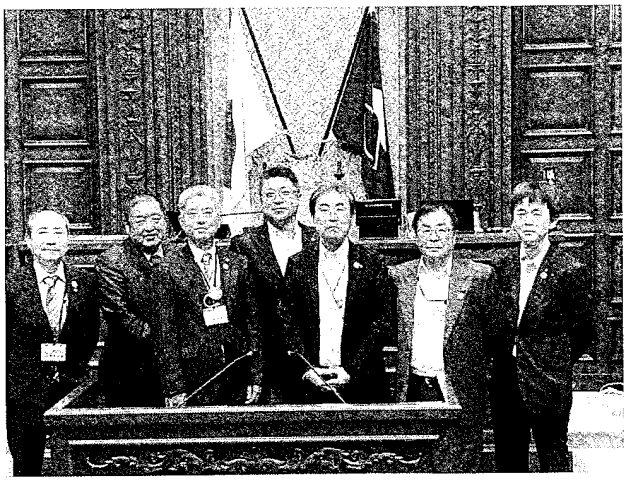
学区を超えて「やってみたい」を選択できる（エリア制）

スケジュール

・令和８年度には、全ての学校の休日活動を地域クラブ「シズカツ」に移行する。
・令和１２年までに、平日のエリア制部活動を終了し、活動の場を地域クラブ「シズカツ」に移行していく。

≪所感≫

今回視察を行った、静岡市は、人口約６８万人であり豊明市の約１０倍の人口規模であり、そんな中でも今回のテーマである、中学校の部活動の問題には、試行錯誤している状況であり、今でも課題は山積している状況であった。本市においても今後切実な課題であることは間違いないため、これを参考に提案していければと感じた。



静岡市議会議場にて

視察研修風景　市議会応接室にて

静岡県沼津市　リノベーションまちづくりについて

現在沼津市では、

自分たちの未来の暮らしをつくる為に、リノベーションまちづくり推進事業に取り組んでいる。

・リノベーションまちづくりをきっかけに、今を楽しむ大人たちの姿が市内のあらゆる場所で増えてきている。そういう大人たちを子どもたちが見ることにより、戻ってきたくなる場所、他所から羨ましがられる地域がつくられる。
・人や物や想いを循環させ、時間を共有することで、多様で豊かな地域を育み、持続可能な都市を目指す。

リノベーションまちづくりは、市内で増加する空き家や空きビル、空き地などの民間遊休不動産や利用度の低下した公共施設、公共空間の活用を通じ、新たな人材やコンテンツを呼び込み、多くの市民にとって楽しい街に生まれ変わることを目標にしている。従来行われてきた「ないものをつくる」まちづくりから「あるものを活かす」まちづくりへの発想の転換を行い、沼津市にしかない地域資源を活かすことを基本的な考え方としている。沼津市では、２０１５年からスタートし、２０１７年に「沼津市リノベーションまちづくり推進ガイドライン」を策定し、その結果、沼津市全域に多くの事業創出が図られている。その中で最も事業集積が進み高いポテンシャルを秘めた「旧国一南エリア」を対象に、戦略的なビジョンを作成し、エリアの期待値を高め更なる価値向上を目指している。

事例紹介

２０２３年度で９年目を迎え、これまでに数多くの実業家、プレーヤーが生まれている。全部で７５件の事業が誕生した。これまで延べ約５３００人が取り組み、参加している。

主な事例

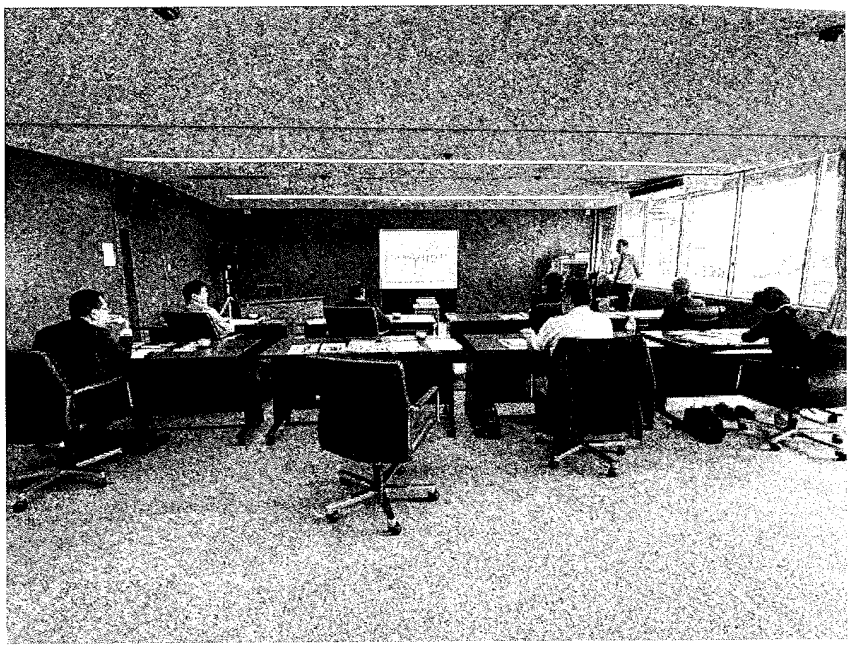
・商店街において、老朽化したアーケードを撤去し、「自然と人が集まる居心地の良い場所」とした。路面の改修は、市の予算で行った空間再編プロジェクト。
・沼津で取れる様々な農産物を使用する、静岡県初となるクラフトジンの蒸留所、鹿野川沿いの空き家をリノベーションして誕生。
・飲食、物販が軒を連ねるランチマーケット。
・デザイナーの為のシェアオフィス、誰もが気軽にデザインの世界に触れる事が出来る、図書館機能を併せ持つ。

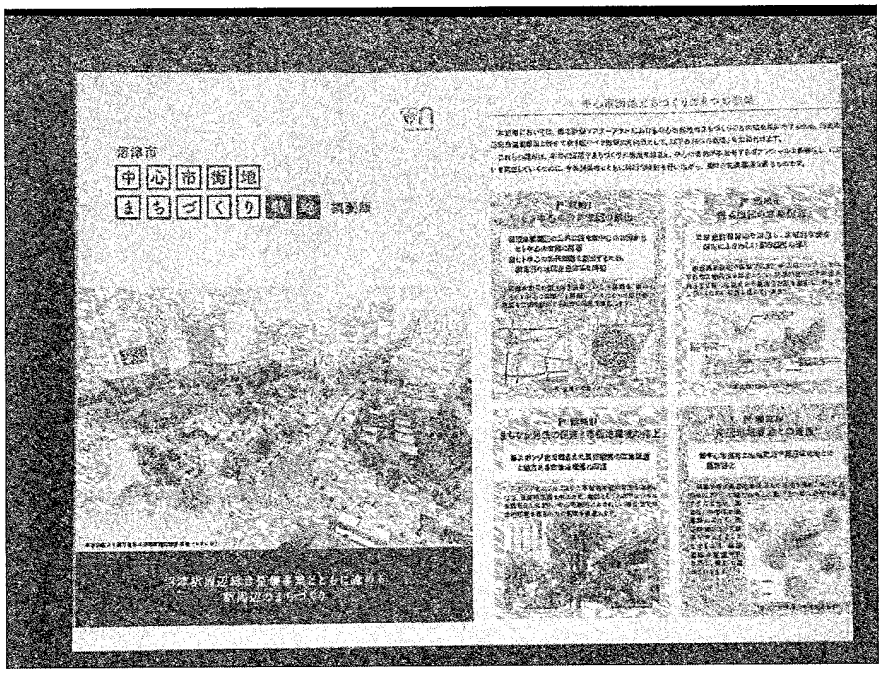
リノベーションまちづくりの掟

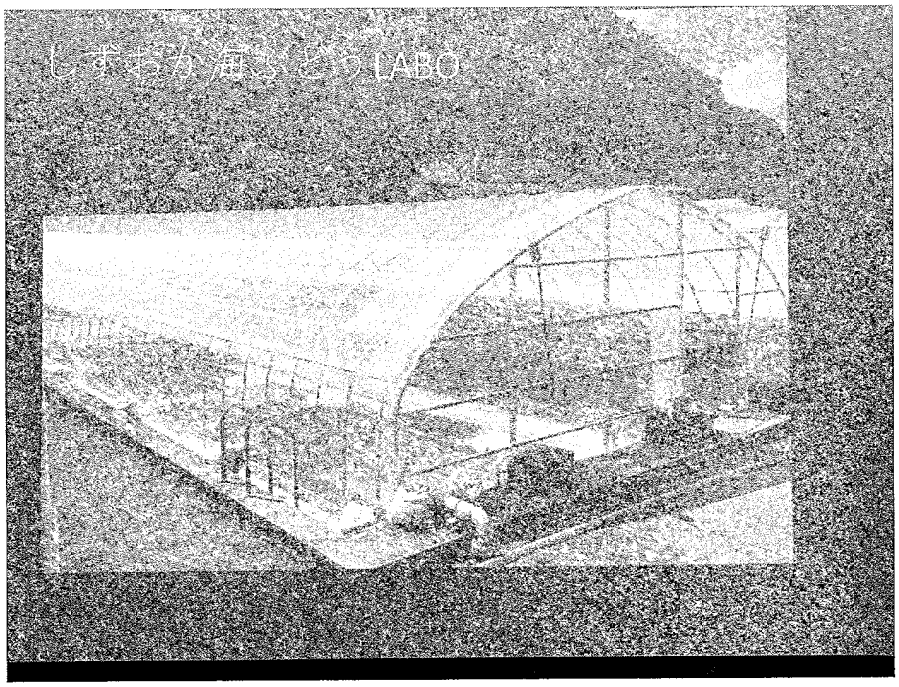
1. 収益性が高く、スピードが速い。
   （今あるものを活かし、新しい使い方を生み出す。）
2. 民間主導の公民連携
   （民間主導で事業を興し、行政はこれと伴走する。）
3. 都市、地域課題を解決
   （事業を通じて、都市経営課題を解決する。）
4. 補助金に頼らない。
   （経済合理性を追求し、継続的、発展的な事業展開を図る。）

≪所感≫

今回の視察では、本市においても抱える大きな課題である、空き家問題への一つのヒントになったといえる。沼津市では、この問題を、前向きにとらえ、空き家、空き店舗を市の財産として、新たな魅力としてよみがえらせるリノベーションを行うことにより、市民が集う活気ある街へと生まれ変わる事業を展開している。一度地元を離れた若者たちも、地元に戻り（U ターン）事業を興していることは、大変すばらしいことである。大変参考になる視察であった。







廃校になった学校のプールを活用し、海ブドウの生産を行っている。

建設文教委員会行政視察報告書

武谷　としお

視察日時：令和６年10月29日（火）～10月30日（水）
視察先　：静岡県静岡市　　部活動の地域移行について
　　静岡県沼津市　　リノベーションまちづくりについて

部活動の地域移行について（静岡県静岡市）

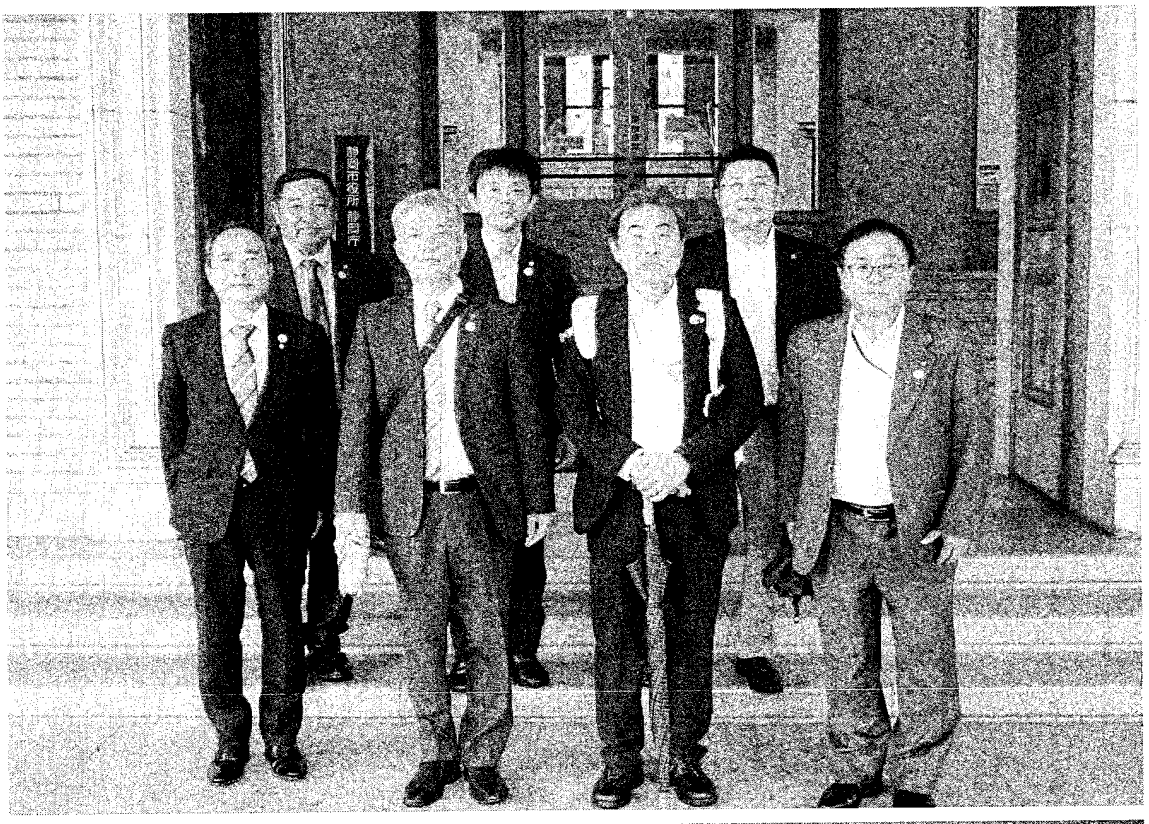
【静岡市の特色】県の中央部に位置し、北は南アルプス、南は駿河湾に面する。全国５位の面積を持ち、市域の約８割が森林。戦国時代は今川義元、大御所時代は徳川家康の城下町として栄えた。現在も、家具、プラモデルなどの地場産業や電気機械機器、化学産業などの製造業、水産物などの食料品製造業が集積。国の国際拠点港湾の清水港が所在。農業では茶、みかん等の生産が盛ん。

【部活動を取り巻く実情について】

・部活動は、任意の学校教育活動ではあるものの、中学生年代のスポーツ文化芸術環境の中心的な役割をはじめ、魅力ある教育活動として実施されてきた。「少子化による影響」、「こどもたちのニーズ」、「魅力ある授業づくりへの環境構築」、その他共働き家庭の増加、核家族化等の家庭環境の変化もあり、対外活動での遠方への移動や慣習的な保護者会の役割など負担の声があり、見直す必要が出てきた。そこで、将来にわたり持続可能で多様な子供たちの活動の場を保証するため、「市」が主体となり部活動に代わる受け皿づくりの設置を目指すこととなった。

【所感】

教育委員会が活動方針や設置数、施設の許可、指導員等の講習を担い、地域ごとに各運営団体に運営委託方式をとっているようだが、一括して運営できる団体を見つけることが難しく、複数運営できる団体の参画が必要。また、部活動顧問が担ってきた大会運営や生活指導、保護者対応など部活動と同等の活動を地域や運営団体が担うことが難しい。平日の部活動と休日のクラブ活動の違いがわかりづらく、責任の謝罪があいまい、混乱をきたす。など多々の課題があるのも現実である。本市においても昨年度より検討開始して、柔道とソフトテニスを実証実験として実施はしているが、静岡市同様多々解決をしていく課題があるので、焦ることなくじっくりこの課題に取り組み、子どもたちに混乱が生じないようにしていくことが大事である。

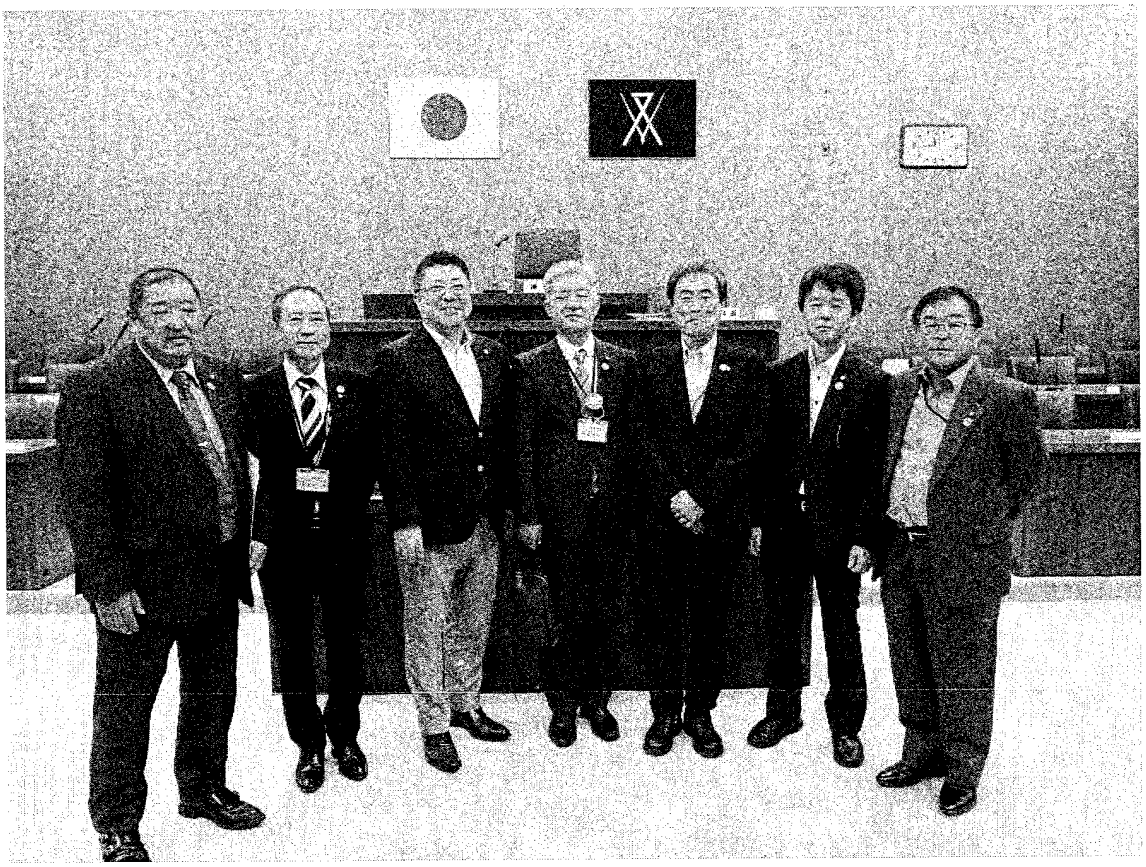


リノベーションまちづくりについて（静岡県沼津市）

【沼津市の特色】県東部の伊豆半島の付け根に位置し、駿河湾越しに富士山を仰ぐ。市域南部の湾岸線は富士箱根伊豆国立公園に指定されている。戦後に大手の工作機械・電気機器メーカーの工場が進出し、工業が基幹産業に発展。水産業も盛んで漁獲量は国内上位。水産加工工場も多く、「沼津産」ブランドも確立。農業はみかんや茶の栽培が盛ん。

【リノベーションまちづくりとは】
増加する空き家や空きビル、空き地などの民間遊休不動産や利用度の低下した公共施設や公共空間の活用を通じ、「今あるものを活かし」新たな人材やコンテンツを呼び込み、新しい・楽しいまちづくりに生まれ変わることを目標とする。
・民間主導でプロジェクトを興し、行政が支援する形で行う公民連携が基本
・地域資源を活かし、経済合理性の高いプロジェクトを興して、地域活性化につなげること
・補助金になるべく頼らず運営できることが目標
・最終的には地域課題の解消を目指す

【所感】
リノベーションまちづくりにはいくつか課題があげられる。
行政からの「長期的な」支援や補助金が難しいのではないか。成果が上がっている事業であっても、一つの事業に補助金や交付金を継続的に支出するのは難しい現状あるのではないか。また、優秀、積極的な市職員が一つの部署にとどまるのも難しい。また、その市職員が構築した関係者とのつながりを新しい職員が再構築するには時間がかかる。リノベーションまちづくりには、遊休不動産を「低額で提供」して協力していただける不動産所有者の存在が最重要であると考える。「公共のためにリノベーションまちづくりに賛同する」といった不動産所有者の存在を募集し見つけ出す作業が大変である。その、所有者にはメリットがあるようにする必要もあるのではないか。沼津市の場合はまず、賛同者や起業家の発掘、育成及び情報共有を公民が連携して行っていくことが重要と考え、これを目的とした会議体の設立を行っていた。本市においてもまずそこから進めていくのがよいのではないか。なお、本市では社会実験として、前後駅前広場を活用し、まちなかの公共空間の可能性を発見する取り組みがスタートしたが、まずは小さな公共空間から始めたのは良い取り組みだと思う。関係機関とも連携し、より多くの市民の声を集めて単発で終わることのないよう、市内の魅力ある公共空間を発掘し、継続してこの取り組みを続けることが、本市でも課題である空き家問題や人口流失問題の解決の一助になると考える。



令和６年度　建設文教委員会行政視察　報告書

鈴木　智和

【１日目】

・視　察　日：令和６年１０月２９日(火)　14:00～16:00

・視　察　先：静岡県静岡市教育委員会

・視察の目的：部活動の地域移行について(中学校部活改革)

■「シズカツ」を導入した経緯

＜背　景＞

①少子化による部活動の維持が困難な学校が増加

②教員の働き方改革による長時間労働の解消

③地域住民のスポーツ・文化活動への関心の高まり

＜シズカツの創設＞

①学校管理外のクラブとして「シズカツ」を創設

②市が運営する学校管理外のクラブであり、地域人材の参画を促進

③スポーツ・文化芸術活動の機会を保障し、子どもたちの成長を支援

＜改革の推進＞

①令和５年度から３年間を改革推進期間とする

②休日の部活動を段階的に地域移行する

③地域クラブ「シズカツ」の創設に向けた取り組みを加速した

＜特　徴＞

①エリア制の導入：**学校の枠を超えて**、地域全体で子どもたちの育成を支援する

②スポーツ指導者や文化芸術指導者など、地域の人材を積極的に活用する

③スポーツだけでなく、文化芸術活動なども含めた幅広い活動を行う

■課　　題

＜指導者の確保と質の担保＞

①各スポーツ・文化分野において、専門的な知識と指導経験をも持つ指導者を確保することが難しい

②ボランティア中心の活動のため、指導者のモチベーション維持が課題

③新しい指導者を育成するための仕組みがまだ十分に確立されていない

＜施設の利用＞

①学校施設の利用時間や条件が、シズカツの活動に必ずしも合致していない場合がある

②シズカツ専用の練習施設が不足している

＜経費の確保＞

①活動に必要な用具や消耗品、保険料などの経費を確保することが課題

②様々なスポーツ・文化活動に対応するためには、多額の経費が必要

＜地域住民の参加＞

①シズカツの活動内容や参加方法に関する情報が十分に伝わってない

②地域住民に、シズカツの意義や重要性を理解してもらう必要がある

＜学校との連携＞

①学校とシズカツとの間で、連携体制を構築することが重要

②学校とシズカツとの間で、情報共有を密に行う必要がある

＜課題解決のために＞

①地域住民のボランティア育成　②指導者の資格取得支援　③学校施設の利用促進

④経費の補助　⑤情報発信の強化

＜今後の展開＞

①学校、地域住民、スポーツ団体、文化団体など、様々な主体が連携して活動を進める

②シズカツの運営状況を定期的に評価して活動を進める他

■視察の所感

豊明市においても試行的に柔道・ソフトテニスを部活動の地域移行をしていますので、比較しながら論じます。

＜共通点＞

①少子化や教員の働き方改革といった社会情勢の変化に対応し、子どもたちがより多くのスポーツ・文化活動に参加できること機会を確保することを目指している。

②学校と地域が協力して、子どもたちの活動を支える体制を構築しようとしている。

③学校主導の部活動から、地域主導の活動へと移行することで、より柔軟な活動が可能になると期待されている。

＜相違点＞

①静岡市は「シズカツ」という独自の名称で、市全体で一括化して取り組みを進めているが、豊明市は「部活動の地域移行」という一般的な名称なので、今後ネーミングの検討も必要と考える。

②静岡市は、市教育委員会が中心となって取り組みを進めているが、豊明市は、市教育委員会に加えて、地域住民やスポーツ団体なども含めた検討委員会を設置し、多様な意見を聞きながら検討を進めている。

＜まとめ＞

静岡市の「シズカツ」は、少子化や教員の働き方改革といった課題に対して、非常に革新的な取り組みと言える、豊明市の「部活動の地域移行」も日本の教育改革において重要な取り組み、それぞれの特色や課題を理解し、今後のあり方を考える上で、貴重な示唆を得ることが出来ると考える。

【２日目】

・視　察　日：令和６年１０月３０日(水)　10:00～12:00

・視　察　先：静岡県沼津市都市計画部まちづくり政策課

・視察の目的：リノベーションまちづくりについて

沼津市のリノベーションまちづくりは、地域全体を活性化させ、魅力的なまちへと生まれ変わらせることを目的とした取り組みです。

■背　　景

沼津市は美しい自然や豊富な歴史的資源を持つ一方で、中心市街地の空洞化や人口減少といった課題を抱えていた、こうした状況を打破するため、市は「まち・ひと・しごと創生法」に基づき、リノベーションまちづくりを地域創生の核となる施策として位置づけた。

■経緯と特徴

＜地域創生施策への位置づけ＞

①平成２６年１１月に「まち・ひと・しごと創生法」が施行され、沼津市は同法に基づく「沼津市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦力」を策定

②リノベーションまちづくりは、この総合戦略の中で重要な位置づけとなり、地域創生上乗せ交付金事業としても選定された

＜民間主導の公民連携＞

①従来の行政主導のまちづくりとは異なり、民間企業や市民が主体となり、行政が後押しする「民間主導の公民連携型まちづくり」を推進している

②空き家や空きビルなどの遊休不動産を、民間企業がリノベーションし、新たな商業施設や住居、ワークスペースなどに生まれ変わらせることで、地域に活気を取り戻すことを目指している

＜地域資源の活用＞

①沼津市の豊かな自然や歴史、文化といった地域資源を最大限に活かすことで、魅力的なまちづくりを目指している

②例えば、海や港、富士山などの自然を活かした観光資源の開発や、歴史的な建造物を活用した文化施設の整備などが行われている

■目指すもの

①リノベーション事業による新たなビジネスの創出と、それに伴う雇用の創出

②住民同士の交流を促進し、地域コミュニティの活性化

③中心市街地の活性化と、地域のブランド力の向上

④不動産価値の向上と、税収増による財政の安定化

■課　題

＜資金調達＞

①リノベーションには多額の費用がかかるため、資金調達が大きな課題となる、特に中小規模の事業者にとっては、資金調達が困難なケースも少なくない

②行政の補助金や融資制度はあるが、制度の複雑さや、事業計画の策定など、利用するためのハードルが高いという声もある

＜人材不足＞

①リノベーション事業には、建築設計、施工、不動産仲介など、多岐にわたる専門知識と経験が必要

②沼津市に限らず、全国的にリノベーション人材が不足しており、人材の確保が難しい状況

＜地域住民の理解と協力＞

①リノベーション事業は、既存の建物や街並みを大きく変える可能性があるため、地域住民からの理解と協力を得ることが重要になる

②特に老朽化した建物を解体して新たな建物を建てる場合など、地域住民との意見対立が生じる可能性も考えられる

＜空き家の活用＞

①空き家をリノベーションする際には、耐震性や法規制など、様々な課題をクリアする必要がある

②空き家の所有者との交渉や、建物の履歴調査など手間と時間がかかる

＜地域経済への波及効果＞

①リノベーション事業が、地域経済全体にどのような波及効果をもたらすのか、その効果測定が難しい

②リノベーションによって観光客が増加したり、新たな雇用が創出されたりといった効果は期待できるが、定量的な評価が難しいケースが多い

＜その他＞

①老朽化した建物をリノベーションする際には、耐震性の確保は必須となる、耐震補強には多額の費用がかかるため、事業計画の策定が難しくなる場合がある

②リノベーションによって、周辺の景観や環境に悪影響を与える可能性もあり、周辺住民との協調を図りながら、地域の特性に合ったリノベーションを進める必要がある

③行政、民間企業、地域住民など、多様な主体が連携して事業を進める必要があり、それぞれの立場や考え方の違いから、意見の対立が生じることも考えられる

■今後の展望（課題克服のために）

①公民連携によるファンドの設立や、クラウドファンディングの活用など、資金調達の多

様化を図ることが重要

②リノベーションに関する専門知識やスキルを持った人材の育成を推進し、人材不足を解消する必要がある

③ワークショップやイベントを通じて、地域住民と密接に連携し、共創型のまちづくり進めることが重要

④空き家バンクを活用することで、空き家の情報を集約し、スムーズなマッチングを図ることができる

⑤リノベーション事業の効果を定量的に評価し、今後の事業に活かす必要がある

■沼津市の成功事例を参考に豊明市のリノベーションまちづくりを考察する

①豊明市の強みである自動車産業と連携し、自動車関連の施設やイベントを誘致することで、新たな賑わい創出が期待でき、自動車産業と地域が一体となったまちづくりを目指すことが可能

②豊明市は子育て世代が多い地域で、子育て世代向けの共有スペースや子育て支援施設を整備することで、子育て世代の定住を促進し、地域全体の活性化に繋げることができる

③周辺地域の農産物を活用した飲食店や、農業体験ができる施設を誘致することで地域の魅力を高め、都市と農業の連携をさらに深めていける

④若者や移住者を呼び込むために、空き家をシェアハウスやコワーキングスペースにリノベーションする

⑤地域住民が集まり、交流できるようなコミュニティースペースとして活用することで、地域全体の活用化に繋げる

⑥モデルハウスとしての活用：リノベーションの事例として一般に公開し、リノベーションに対する関心を高める

■視察の所感

沼津市のリノベーション事業の成功事例を参考に、豊明市でも地域資源を活かした魅力的なまちづくりを進めることは可能と思う。

地域の特性を踏まえ、住民の意見を聞きながら、多様な主体が連携して、持続可能なまちづくりを目指していくことが重要と考える。

静岡市 議場

沼津市庁舎 正面玄関

建設文教委員会　視察報告書

こんどう　のぶお

「部活動の地域移行化について」　（R6.10.29 視察）

1．　静岡県静岡市（静岡市議会事務局　調査法制課）

人口：683,739 人

議員定数：48 名

平均年齢：48.8 歳

財政力指数：0.85

（主な目的）

・当市においても少子化、学校教員等における働き方改革が進む中、中学校の部活動の運営の仕方・あり方の工夫が必要になっている。新たな「地域クラブ活動」へ移行する取り組みをスポーツ大国である静岡市への取組を研究することで当市での社会課題への解決をしていきたい。

（視察概要）

静岡市の部活動を取り巻く状況

① 少子化による影響（平成の 30 年間で中学生は約半分、一層の学校規模の縮小が見込まれ、学校単位での活動が難しい。）

② 子どもたちのニーズとして部活動に入りたい種目、希望する活動日数も一律ではない。専門的な指導が受けたくても顧問の大半は競技経験がない。

③ 魅力ある授業づくりへの環境構築として教員に必要な新しい資質・能力を研鑽する時間を生み出し、本来の授業づくりに注力できる環境構築が急務である。一方、希望する教員がスポーツ文化活動に参加できる兼業制度の整理も必要である。

④ その他として共働き、核家族化等の家庭環境の変化もあり、対外活動での遠方への移動や慣習的な保護者会の役割などについても負担の声もあるため保護者の役割を見直す必要がある。

【主な事前質問とその回答】

1．　部活動指導員等（外部人材）の確保はどの様にしているか？

答）学校側が集めた外部指導員の有償ボラ 105 名、部活動の顧問 35 名

2．部活動応援隊に参加された企業様のメリットは？

答）地元企業であり、物、人のサポート（PR）をしている。

3．部活動指導員等の指導における保護者からの相談、苦情等の対応は？

答）1 次的には学校が対応し（教育長）次に指導員が対応する。

4．部活動指導員等の指導におけるマニュアル作成は有りますか？

答）特には無い。研修会、外部顧問に年に数回の講習をします。

5．校内指導者と部活動指導員等との活動方針の調整は？

答）研修会おいて役割分担表にて調整をしている。

6．部活動の内容や部員数等により部活動指導員等への謝礼を変動させているか？

答）有償ボラは@1,000　月20時間、外部顧問は@1,600　年420時間

7．地域クラブ「シズカツ」で静岡市直営の地域クラブの実証実験の導入、経緯や実績、効果ついて教えて下さい。

答）部活動を取り巻く環境の変化があり、将来にわたって、持続可能で多様なこども達の活動の場を保障するため、市が主体となり新しい受け皿として「シズカツ」の設置を目指しています。

8．保護者の金銭的負担は有りますか？

答）現在は有りません。将来的には検討もありうる。

9．部活動指導員等の指導中や地域クラブの活動において、事故の責任所在は？

答）運営団体になります。

10．部活動の地域移行を行う上での課題は？

答）平日と休日の指導員の連携。

（所感）令和5年に実証実験、令和6年調査、シズカツ実証事業Ⅱが令和6年11月～令和7年2月とまだ始まったばかりである。民間からプロポーザルを行ない運営団体4社が決定。現在公費が100%（国補助8割）とのことです。当市も平日の

部活時間の指導者等の確保が難しい状況と聞いている。身近な学校施設の利用、地域の人材の発掘等が同様の課題と思うがこども達の成長の為に研究をしていく必要がある。

「リノベーションまちづくりについて」（R6. 10. 30　視察）

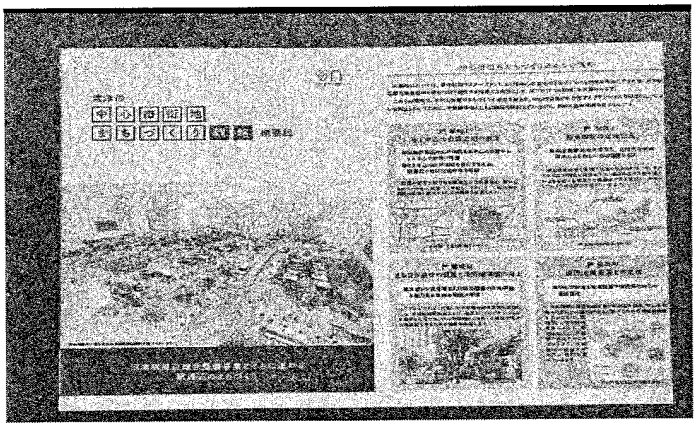
1．静岡県沼津市　　沼津市議会議会局

人口：189,632 人

議員定数：28 名

平均年齢：50.3 歳

財政力指数：0.93



（主な目的）

・沼津市が取り組んできたリノベーションまちづくりは、2023 年度で 9 年目を迎え、75 件ある成功例の秘訣等を伝授し当市の街づくりにも活用すべく訪問をした。

（視察概要）

「リノベーションまちづくり」とは

市内で増加する空き家や空きビル、空き地などの民間遊休不動産や利用度の低下した公共施設・公共空間の活用事業を通じ、U・I・J ターン人材による新たなコンテンツが、さらなる人材やコンテンツを呼び込み、多くの市民にとって楽しいまちに生まれ変わることを目標としています。

従来の行政主導のまちづくりと異なり、民間主導の収益性を兼ね備えた事業による「民間主導の公民連携型まちづくり」により進める。

【主な事前質問とその回答】

1．空き家等を活用し産業や地域コミュニティー再生を図るに至った経緯について

答）少子高齢化などまちに増える遊休不動産を面的に展開再生していく。

2．旧内浦小学校プール跡のリノベーションの事例について。

答）しずおか海ぶどう LABO。廃校となった小学校のプール跡を再利用。沖縄県特産の海ぶどうを沼津の海水を使って養殖（中間養成）し、新たな観光資源の創出を目指している。

3．移住者の創業される方と地域コミュニティーをつなげる仕組み、工夫は？

答）リノベーションスクール@沼津の開催により素人の方のゲストスピーカーとの交流会。企業版リノベーションスクール沼津の開催。講演会・シンポジューム。空き家・空き店舗活用セミナー見学会。関係機関（警察、保健所など）との協力が重要。市役所内においては部署横断のまちづくりプロジェクトが必要。

（補足）

・8年間にて 75 件の実績があり廃業された店舗、事業は無いとの事です。色々な事業者が得意不得意の分野を補っているようにも思える。小さいリノベーションは民間の遊休施設。大きいリノベーションは公共の遊休施設と相成っている。予算は地域創生交付金を利用。　年 1,000 万円。一般財源 50%（国財源 50%）との事。

（所感）

・沼津市のリノベーションまちづくりの成功の秘訣には人を育てる、見出す観点であると思います。「欲しい暮らしは自分で創る」をスローガンにしている。スタート時の苦労としては“どうしていいか分からない”“知らない人に会うのがストレス”最初の１歩を踏みだす勇気が必要との事。マインドセットを変えるのが難しい。との事。地元にあるもの（もの、人、資源）の使い方、育て方がうまくできている。

当市も小さいまちであるが、見習う点は多々あり今後に活かしていきたい。

令和６年度

建設文教委員会行政視察報告書

報告者　いとうひろし

1.視察日・視察先

令和6年10月29日　　静岡県静岡市　　「部活動の地域移行について」

令和6年10月30日　　静岡県沼津市　　「リノベーションまちづくりにつて」

2.参加者

・委員長　服部龍一　・ 副委員長　武谷としお
・委員　　いとうひろし・清水義昭・鵜飼貞雄・鈴木智和・近藤のぶお
・事務局　寺島慎二
・教育部長　浅井俊一（29日のみ参加）

＜1日目視察　部活動の地域移行について＞

〇静岡市の概要

・面積 1411.93K ㎡
・人口 683739 人
・県庁所在地もあり中核指定都市である。

〇視察の目的

・市内学校の部活動の地域移行をより良い形に進めるための視察

視察について　静岡市　10 時から 11 時 45 分（説明者教育課）
少子化と教員の働き方改革等の国の方針により、中学校の部活動に代り、「シズカツ」を導入して地域クラブへの移行をしており、部活動改革を進めているので、参考にしていきたい。

＜地域移行の4つの大きな課題等＞

1. 少子化による影響

平成の 30 年間で中学生は約半分になり、毎年300名から400名の減少があり、今後の学校規模の縮小が見込まれ、学校単位での活動が難しくなると考えられる。

2. 子ども達のニーズの変化

部活動に関心はあるが、入部したい部活の種目がないとの意見があり、アンケートでは3人に1人が回答している。また、顧問の半数は競技経験がなく人事異動等もあり持続体制にも問題。

3. 魅力ある授業づくりへの環境構築

教員に必要な新しい資質・能力を身に着ける時間や授業づくりに注力できる環境が急務。
また、教員が希望するスポーツ文化活動に参加できる兼業制度の整理が必要。

4. その他

共働き・核家族化等の家庭環境の変化や遠方への移動や慣習的な保護者会の役割への負担の声もあり、保護者の役割を見直す必要がある。

以上のような課題等があり、持続可能で多様な子ども達の活動の場を保証するため、市が主体となり部活動に代わる受け皿として「シズカツ」の設置を目指している。

「シズカツ」のコンセプトについて

誰もがスポーツや文化芸術に浸しみ・楽しみ・挑戦できるクラブを目指している

競技の結果ではなく地域のつながりとしてのコミュニティにも期待しており、学校施設を拠点に新たな種目取り入れ、子ども達がつくるクラブとしてバランスの取れた運動量にして、楽しんで市民がコーチとして参画しやすい体制整備していく。

学区を越えて“やってみたい”を選択できる（エリア制）取り組み

近隣校グループのエリアごとにクラブを設置して、学区を越えてエリア内のクラブから種目を選択できる仕組みで、一定の参加者の確保と、様々な仲間と繋がる力の育成が期待できる。

静岡市の教育課の方から資料やお話で「シズカツ」をとても分かりやすく説明をしていただきました。そこで次に「シズカツ」の運用方法等について質問に対する回答内容と課題等お聞きしました。

① 市内４つの運営団体があり、エリアを3つに分けてそれぞれの種目のクラブを運用
② 年間、外部指導者や有償ボランティイア等の謝礼等の年間運営費は約1000万
③ 兼業の教員が減ってきた
④ 事故等が発生した時は市が責任を取る
⑤ 生徒の移動等は保護者で行う
⑥ 外部指導員は35名・有償ボランティイアは105名在籍

所管
部活動の地域移行の流れとして民間の会社や団体に委託していく方向で考えていたように感じました。静岡市の「シズカツ」の取り組みは大いに参考になりました。
本市においても、同じような流れになると思われるが、持続性の可能な指導者の発掘がキーポイントになります。また、毎年の行政側の予算も今まで以上に必要となり、保護者の理解と協力も必要と感じました。

＜2日目視察　沼津市　リノベーションまちづくり＞

〇沼津市の概要

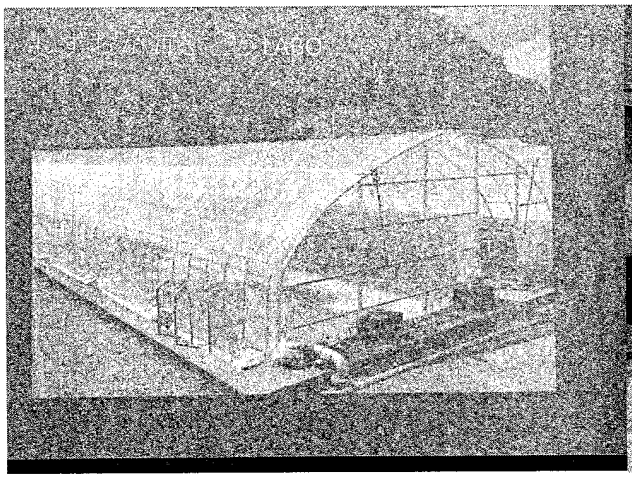
・面積　186.82K㎡
・人口　189632人
・市のほぼ真ん中付近を1級河川の狩野川が流れている。
・伊豆半島の根元に位置し、海岸線は62Kmあります。

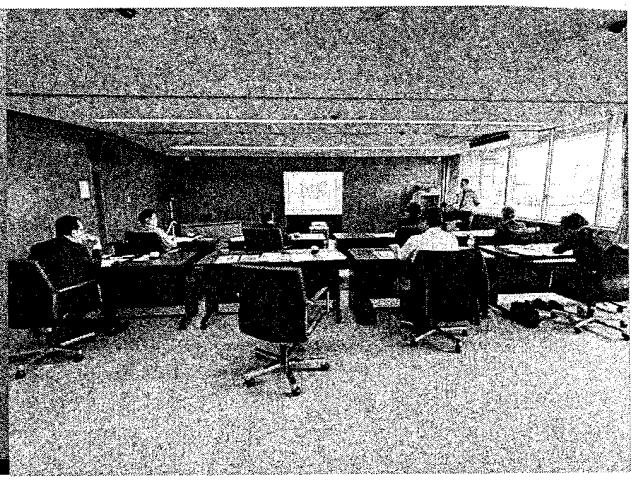
〇視察の目的

午前10時から11時45分（説明者　都市計画部）
市内で増えている、空き家や空き店舗を有効に利用して街の活性化に繋げていく、市民による取り組みの成功例を豊明市においても、実施して行くために伺いました。

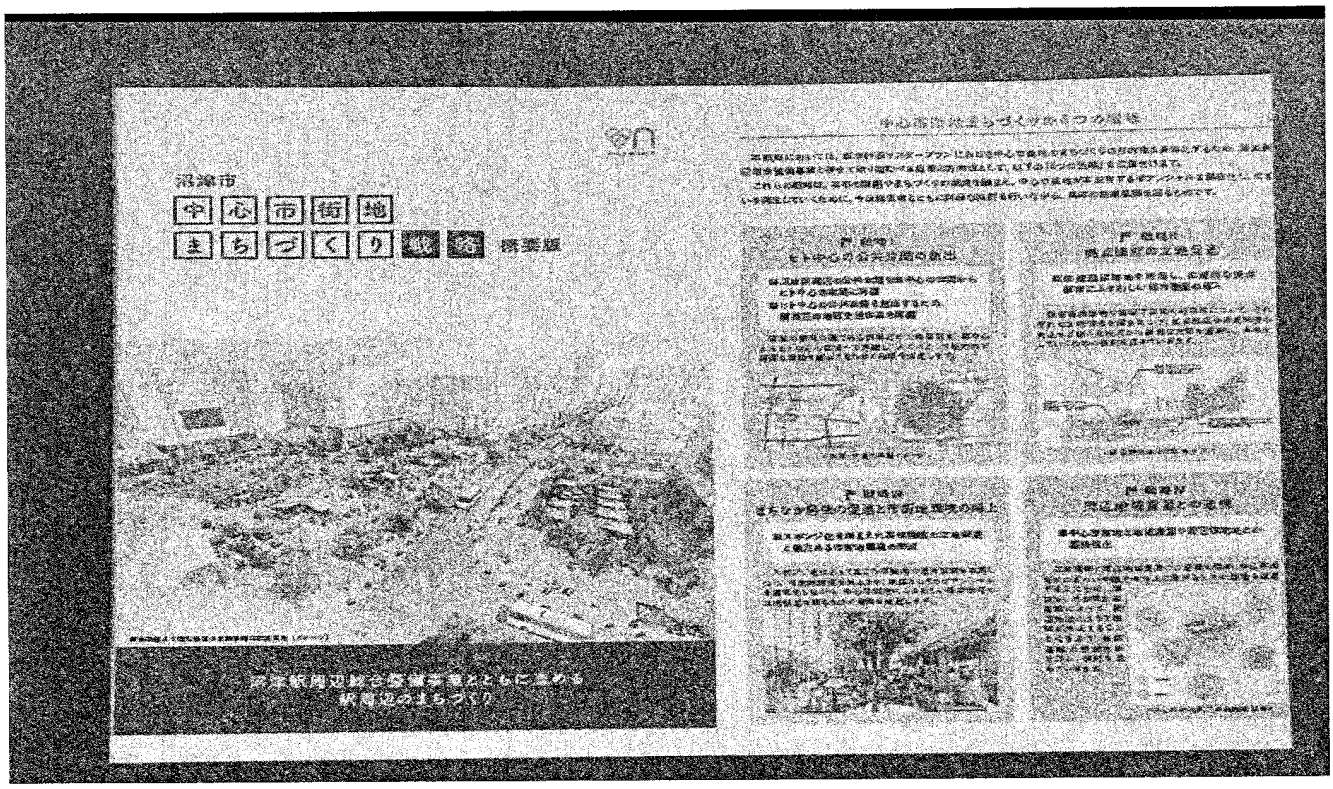
＜ないものをつくるからあるものを活かす取り組み＞
・2015年から始め、2017年に「沼津リノベーションまちづくり推進ガイドライン」を策定し、市全体に多くの事業創出が図られ、更なる価値向上を目指している。

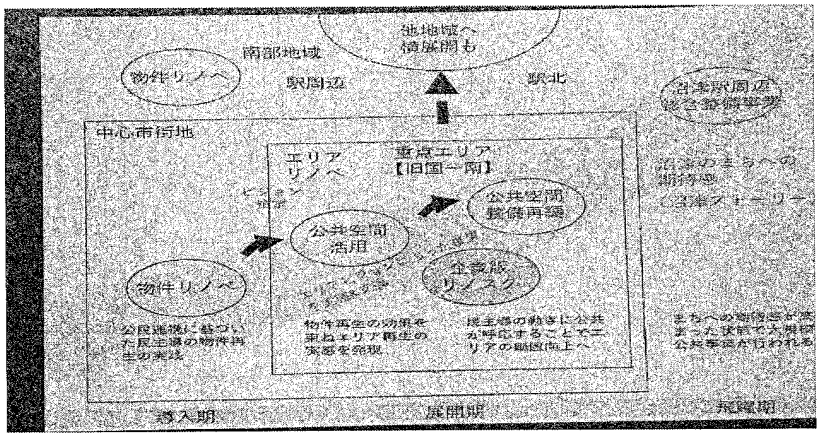
① 小学校のプール跡地にビニールハウスを設置して「海ぶどう」の栽培を行い、関東地区へ沼津産として出荷している。
② 公園をリノベーションしてテント宿泊・ブライダル・定期的なマーケットの開催を行う。
③ 収益と公益性を兼ね備えた75事業が誕生している。
④ 補助金に頼らない運営を行っていく。
⑤ 100%の U―ターンシティを目指す。





＜リノベーションスクールの開催＞
有識者や建築関係等の方との「空き家や空き店舗見学会」を開催している。
また、成功例や開業者との情報交換や人的ネットワークでつないでいき、地域課題をクリアしていくまちづくりに取り組んでいる。





所管

夢の実現を応援・・・・・スピード感をもって取り合えずやってみよう！

沼津市の取り組みに感動しました。私もHIROシティを考えてみたくなりました。

豊明市においても「さかさま不動産」や「空き家や空き店舗見学会」・「リノベーションスクール」の取り組みを行いたいと感じました。

主体性のある若者が少くない中、「ほしい暮らしは自分でつくる」という事が重要で、共通な目的を持った仲間づくりをして、豊明の未来へつなげていきたいです。

建設文教委員会行政視察報告書

提出者　鵜飼　貞雄

視察期間：令和６年１０月２９日(火)～１０月３０日（水）
視察先　　静岡県静岡市
　　静岡県沼津市

１日目

部活動の地域移行について（静岡市）

●現状と取り組み

・少子化の影響もあり、各中学校単位では生徒数の関係で成り立たない部活動も出始めている。具体的には平成の３０年間で生徒数は約半分にまで減り、今後、毎年３００～４００人程度減少し、学校規模の縮小が見込まれている。

・部活動に代わる新たな受け皿として、近隣校単位で１５のエリアに区割りをし、市が主体となり設置運営する地域クラブ活動である「シズカツ」の設置に向け実証実験をはじめている。

・静岡市の中学校部活動改革は、現存の部活動制度を続けるのではなく、子どもたちの放課後や休日の活動を持続可能に変革していくことを目的としている。

・実施体制案として、静岡市教育委員会から地域ごとの運営団体に委託をする。その運営団体は、地域人材や部活動指導員、大学生など登録を受けた指導員の管理やクラブの運営にあたる。

・スケジュールとして、現在は平日・休日ともに学校単位・エリア制の学校部活動を行っている。令和８年夏には休日のみを「シズカツ」に移行。令和１２年までに平日・休日ともに「シズカツ」への移行を目指している。

◆所感

子どもたちの部活に対するニーズも変化しており、ダンスやバトミントン、プログラミングなど、今までになかった活動を望む生徒が増えているようである。

少子化により、学校単位では部活動が成り立たなく、新たな取り組みに移行していくのは必然であると思う。今後は地域の子どもは地域で見ていく考えのもと、指導員の指導能力や安全管理への責任など、どのように対処していくかはやってみなければ分からない事かと思う。

部活動は任意の学校教育活動と言われているが、実際今までは半強制的に行われてきた。しかしそれは中学生年代のスポーツ・文化活動の中心的な役割を果たし、魅力ある教育活動として実施されてきた。今後は部活動を廃止し任意の活動に移行する事により部活動離れが懸念されるが、そのようにならないためにも、生徒にとって魅力ある活動になるよう、各自治体研究をしなければならないと思う。

２日目

リノベーションまちづくりについて（沼津市）

●現状と取組み

・沼津市では人口減少・少子高齢化が様々な問題を起こしている。直接、人口を増やす事は難しいため、空き家や空き店舗を利活用して賑わい創出につなげた結果、２０２４年３月時点で約５，３００人以上の市民が事業に参加した。

・リノベーションまちづくり推進ガイドラインでは、今までにないような面白くて新しい産業を発掘し、質の高い雇用の創出を目指している。

・市内中心部の空きビルを再生。遊休ビルの暫定利用で人や活動を集める取り組みを推進。多くの人がトライアルスペースとして活用し、新たな取り組みを始めるスタートアップの活動拠点となった。中には賃貸借契約を結び営業を続けている店もある。この結果、令和５年までに７５の事業が誕生した。

・「週末の沼津」とのマーケットを開催し、このマーケットが気に入り移住してきたり、テストマーケットとして利用したりする人が増えた。
・100%U-TURN CITY。学生には県外に出てもらい、様々なスキルを身につけてもらい、地元沼津に戻り活躍してもらう。「いったん離れた人たちが自分たちのまちをつくる」コンセプトのもと帰ってきた人たちが関わりやすいまちへの変革を「リノベーションまちづくり」をきっかけに実現している。

◆所感

本事業のスタート時には、市の担当者もどうして良いか分からなく、手探りの状態で事業を始めた。当初は行政圧力が強い傾向にあり、まちづくりに参画する人たちが本当にやりたかった事ができなかったとの事。

このような事業は、行政主導で始めるか、市民の手で作っていくのか分かれる傾向にあると思う。しかし沼津市では、まちづくりにかかわりの浅い人も参加させ化学反応を狙うなど、様々な手法を用い行政と市民が二人三脚で事業を展開している点が素晴らしいと思った。市民を巻き込んでいくには相当な苦労があったのではないだろうか。

本事業には年間約１，０００万円の予算がつけられているようで、やはり無償での事業展開は難しいとも感じた。しかし、リノベーションが目的ではなく、人的ネットワークの創出で何かを始めたい人の後押しをする理念は、限られた予算の中で最大限の効果を発揮する本事業を一言で表すに最も適した言葉だと思う。

令和６年度　建設文教委員会行政視察報告書

令和６年１１月１２日
清水 義昭

日付：令和６年１０月２９日（火）
場所：静岡県静岡市（市役所静岡庁舎）
項目：部活動の地域移行について

〇主な視察内容

・少子化
・生徒のニーズの多様化
・教員の多忙化、働き方改革

上記の理由から、本事業を行うこととした。概要は、

・部活動指導員等の確保
・部活動に代わる受け皿の設置実証事業の実施及び計画策定

である。主な特徴は、

（部活動指導員等）
・指導員等は２種類。会計年度任用職員となる外部顧問はチラシなどで募集。有償ボランティアは学校がＯＢや旧保護者等から探している。
・指導員等の採用に際し面接を行っている。マニュアル等は作成せず、研修や試用期間を設けて対応している。
・指導員等の扱いは市民コーチで資格は不要。大学生もいる。
・外部顧問は１，６００円／ｈ、４２０ｈ／年以内。有償ボランティア１，０００円／ｈ、２０ｈ／月以内としている。

（部活動に代わる受け皿）
・市が中心となって設置運営する部活動とは異なる地域クラブ活動「シズカツ」の設置を目指し実証実験を行う。
・近隣校単位の「エリア」ごとに設置することを目指す。

・地域ごとに各運営団体に運営委託できるようにすることを目指す。

である。本事業により得られた成果は、

（部活動指導員等）
・種目による指導者の必要人数や現状での過不足を確認することができた。
・活動方針等の調整のため、指導員等の研修会や役割分担表を作成することができた。
・指導員等の責任や保護者などからの相談の対応を、教育委員会に集約することを取り決めることができた。

（部活動に代わる受け皿）
・スポーツクラブやＮＰＯ等、民間事業者へ運営を委託する実証実験を行うことで課題を検証する方法を構築できた。
・生徒たちが取り組んでみたい活動のニーズを把握することができた。
・異なる学校の生徒が混ざったクラブ活動においてもほぼトラブルはなく、切磋琢磨できるため保護者や子どもたちから評判が良いことがわかった。

である。

○所管
本市において、教員の多忙化や少子化、生徒らのニーズが多様化していることから、学校単位で教員のみが指導する部活動に限界が近づいている状況となっている。
本視察において、部活動指導員等の確保と部活動に代わる受け皿について学んだ。
指導員等の確保については、教員の他やや専門的となる外部顧問と有償ボランティアとに分けられ、面接や研修会、試用期間を設け適切な人材を確保するための施策が展開されており教員の多忙化解消に効果的であり参考になった。課題は、ニーズの多様化や人気種目の偏りにより指導員等が不足する種目があることや、大会運営、生活指導、保護者対応が難しいこと。
部活動に代わる受け皿については、親しみ、楽しみ、挑戦できるクラブを目指し、適度な活動で民間活力による地域密着のクラブ活動が運営されるよう計画されており、生徒、学校、民間事業者のそれぞれが満足できる計画となっていた。課題は、生徒のニーズが多様化しているためより多くの団体の参画が必要で、そ

の確保が難しいこと。
　本市においても多様なニーズへの対応や教員多忙化解消、部活動の地域移行に向け、本視察にてご教示いただいた施策を精査し、今後の部活動のあり方についての提案をしていきたい。

日付：令和６年１０月３０日（水）
場所：静岡県沼津市（市役所）
項目：リノベーションまちづくりについて

〇主な視察内容

・市内で空き家や空きビル、空き地などの民間遊休不動産や利用度の低下した公共施設、公共空間が増加している。

上記の理由から、本事業を行うこととした。概要は、

・一定のエリアにおいて複数の空き家、空きビル、空き地など遊休不動産に対しリノベーションの手法を用いて面的に再生を行う。
・従来の行政主導のまちづくりとは異なる民間主導の収益性を兼ね備えた事業による「民間主導の公民連携まちづくり」を進める。

である。主な特徴は、

・一定のエリアを面的にリノベーション再生することにより、初期投資を抑制できるうえ早いスピードで行うことができ、事業性、収益性が高くなる。
・面的に再生することにより、事業を通じて都市経営課題の解決をすることができる。
・民間主導の公民連携を行うことで、民間は事業を盛んに行い、行政はこれに伴走する。
・経済合理性を追求し、継続的、発展的な事業展開を図ることにより補助金等に過度に頼ることなく行っていける。

である。本事業により得られた成果は、

・空き物件に対してエリアごとに面的活用促進を行ったことにより民間主導で面的整備がなされ活気付いてきている。
・U、I、Jターン人材による新たなコンテンツが更なる人材やコンテンツを呼び込み、多くの市民にとって楽しいまちに生まれ変わってきている。
・これまでに延べ約５，３００人の方に参加いただき、啓発、人材発掘、事業化支援など段階的に取り組みが進んでいる。
・行政のやり方は順番的なものが違う、と協力的な方たちに指摘されやり方を徐々に変えて行くことができた。

である。

○所管
本市において、人口の増加、産業の活性化は喫緊の課題である。
本事業は当初、移住促進として始めたが、企業開店が多くそちらのウエイトが高くなり現在に至っているとのこと。
金融機関からの出資や商店街のサポート、家守企業、創業支援企業など数多くの民間を巻き込み、行政が伴走支援することにより民間主導でまちの賑わいを創出する事例であり参考になった。
遊休土地に球体テントを作り人が集まるようにしたら、その場所でウエディングが行われるようになったり、定期マーケットをするようになったらそれが気に入り他市から移住してきたりと予期せぬ副次的効果が得られていることなどは、とにかくやってみるという市の姿勢が生みだしたと思われ感心を持った。
予算は年間１千万円程度、うち約半分は地域創生加速化交付金や地方創生交付金などが活用されている。歳出については、啓発やトークイベント、再生する空き物件掃除等の委託料がその多くを占めるとのことだが、事業規模に対して予算が低く抑えられていることは目を引いた。
特に大きな課題の紹介は無かったが、継続して予算の投入ができるかや、市の担当職員の異動等により継続が困難になる可能性が否定できないのではないかと感じた。
本市においても空き家や空き店舗などが散見されることから、本視察においてご教示いただいた施策を精査し、まちの活性化に取り組む施策の提案を行っていきたい。